

令和5年度愛知県立愛西工科高等学校 学校評価

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できたC:継続的な取り組みが必要であるD:取り組むことができなかった

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	評価		
				具体的方策の評価	結果と課題	重点目標評価
本年度の重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。					
総務課	① 担当者が、総務課内の連携を図り主体的かつ丁寧に事業を計画し運営する。また、業務量削減、業務分担、業務効率化の促進を試みる。	・ 総務課の業務分担を促進するとともに校外の視点及び効率化の観点から事業の計画及び運営を行う。	・ 新たな発想や観点を常に意識する。	B	・ 業務分担を促進し、校外の視点及び効率化の観点から事業の計画及び運営を行った。	B
	② 式典や行事において本校生徒に身に付けさせる資質・能力である問題解決能力、人間性、コミュニケーション能力の向上となる取り組みを行う。	・ 講話等により向上を試みる。	・ 講話内容を考慮する。	B	・ 講話によって向上を試みた。	B
教務課	① 学習評価の充実	・ 観点別学習評価の運用を行う。観点別学習の評価(3観点)を実施する中で、課題等について把握に努め、改善に向けた取り組みを行う。	・ 3観点による評価方法の検証を行い、改善すべき内容があれば次年度に向けた見直しを行う。	B	・ 3観点による評価方法の改善点の把握と継続的な見直しが必要である。	C
	② 新校務支援システム(スクールエンジン)の運用	・ 新校務支援システムがより確実に運用できるように、移行データの不具合、使用方法等について職員へ周知を行う。	・ 「成績処理」「要録作成」「調査書作成」などが誤りなく運用できるよう使用方法等を周知する。	B	・ 「成績処理」「要録作成」「調査書作成」において関係職員と連携を図ることで、移行データの不具合等を発見することができた。また、不具合の原因を究明し誤りなく運用できるよう適宜周知を行った。	C
	③ 今年6度入学者選抜で変更される内容について資料を整理し、正確で効率的に入学者選抜業務が行えるようにする。	・ 令和6年度入学者選抜で変更される内容について資料を整理し、令和5年度入試選抜の経験を踏まえ、正確で効率的に入学者選抜業務が行えるようにする。	・ 資料の整理に努め、今後に向けて誤りのなく効率的な入学者選抜業務に繋げる。	C	・ 令和6年度入学者選抜に関する情報や資料を整理し、適宜対応している。2月に実施される推薦、特色、一般の入学者選抜業務に向け、昨年度の反省を踏まえた計画立案を関係職員と連携を図りながら適宜進めている。	C

令和5年度愛知県立愛西工科高等学校 学校評価

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できたC:継続的な取り組みが必要であるD:取り組むことができなかった

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	評価		
				具体的方策の評価	結果と課題	重点目標評価
本年度の重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。					
生徒指導課	① 学校生活に向けての取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻をしない指導の継続 身だしなみ指導の徹底 職員間の情報共有の継続 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導課を中心とした登校指導を継続して行い、正しい生活習慣を身に付けさせるために適宜指導を行う。 身だしなみ指導日だけに限らず、日々の教育活動において全職員で徹底して指導を行う。 生活面、学習面での生徒の変化に注意し、生徒情報を共有することで、適切な改善点の指導や助言する。また指導方針、指導手順などは、全職員の共通理解のもとで指導にあたり、保護者の理解と協力を得る。 	B	遅刻数は昨年度とほぼ同数であった。	B
				B	校内での身だしなみは概ね良好であった。	
				B	速やかに生徒情報を共有することができた。	
	② いじめの早期発見、適切な対処	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活等のアンケートの実施を情報端末機器を使用し、速やかに集計するとともに、その後の対処を迅速に行うことによって、いじめの早期発見、適切な対応につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活等に関するアンケートを実施し、いじめに該当する内容を確認し、速やかに対処することができたか。 	B	学校生活アンケートを情報端末機器を用いて実施することができた。	B
				③ モラル・マナーの意識向上	<ul style="list-style-type: none"> 社会で求められるモラルやマナーの意識向上をあらゆる教育活動を通じて啓発する。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校時の交通指導を毎日実施するとともに下校時についても定期的に実施する。また、学校生活のあらゆる場面でモラル・マナーの指導を実施することができたか。
	生徒会課	① 部活動の活性化（継続）	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数減少による部員の減少や、教員の働き方改革を鑑みた部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動に所属して精力的に活動している生徒や入学・入部を希望している中学生の不利にならないようにする 	C	部登録している生徒の割合に変化はなかったが、活動する生徒数を増加させる対策が必要である。
② 新システムでの学校ホームページの更新		<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムな学校ホームページの更新を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報公開に同意しない生徒の写真等を掲載しないよう注意する。 	B	概ね新しい情報に更新することができた。	B

令和5年度愛知県立愛西工科高等学校 学校評価

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できたC:継続的な取り組みが必要であるD:取り組むことができなかった

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	評価		
				具体的方策の評価	結果と課題	重点目標評価
本年度の重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。					
保健厚生課	① 感染症予防を含む、生徒の健康状態の向上	・健康観察をもとに、生徒の健康状態の把握に努め、必要に応じて改善の方策を講じていく。	・健康観察を確実に実施するため、担任を中心に周知していく。	B	・毎日実施されている健康観察のもとに、生徒の出欠状況を確認し、注意喚起することができた。在校時における、保健室の来室記録などの情報共有ができる対策を検討していく。	B
	② 教育相談及び、特別支援教育充実ための取り組みの実施	・過年度からの取り組みをさらに発展、充実したものとしていく。	・保護者や中学校、調査などから集まった生徒情報を、委員会等を通じて関係職員に周知する。	B	・カウンセリングをうけた生徒の担任とスクールカウンセラーが情報共有する機会を設定したことはよかった。今後は個別の教育支援計画の運用を検討していく。	B
	③ 校内美化活動の見直しと充実	・現在までの取り組みを見直すとともに、校内の衛生を持続的に保つことができる方策を実施する。	・活動が生徒、職員に過度な負担を強いるものにならないようにする。	C	・保健美化委員活動として清掃状況点検を実施したが、点検結果を毎日の美化活動に活かす方法は検討が必要である。	C
	④ 安全点検の実施と危険個所の改善	・安全点検を確実に実施し、修繕等が必要な箇所については事務と連携し、改善する。	・対応した結果を関係した職員に周知する。	B	・施設修繕の依頼及び修繕は実施できたが、危険個所改善は方法及び情報共有に検討課題がある。	B
進路指導課	① 特別活動の充実	・インターンシップ等の実施	・受け入れ先の厳選と実施フローの明確化。	B	・Formsによるアンケートでインターンシップ受入企業を広く募ることができた。進路業務は6、7月が集中しているため5月頃から進めるようにしたい。	B
	② キャリア教育の充実	・キャリアパスポート、キャリアデザインノートを進路指導（行事）とリンクさせ年度毎にPDCAを実施できるようにする。	・コロナ禍からコロナ禍後にむけて、注意点、表現等随時更新。	B	・キャリアデザインノート及びキャリアパスポートを行事に合わせて利用することができた。キャリアパスポートフォーマットを利用しやすく改良したい。	B
	③ 情報発信の拡充	・求人企業情報を随時更新（Teams利用）する。 ・Formsを利用したデータ収集と情報発信方法の工夫を行う。	・Teamsのチームの整理と、使用方法指導の徹底。UPデータの危険管理。 ・Forms利用時の使用方法の指導。	A A	・求人情報をTeamsで発信することができた。次年度は、検索機能も活用できるようにしたい。 ・Formsの活用により、様々なデータ集約が効率的に行うことができた。	A

令和5年度愛知県立愛西工科高等学校 学校評価

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できたC:継続的な取り組みが必要であるD:取り組むことができなかった

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	評価		
				具体的方策の評価	結果と課題	重点目標評価
本年度の重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。					
工務課	① 工業4学科との連携と協力	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が参加する各種競技会、地域の行事、学校主催の行事等について、工業4学科の協力を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種競技会や講座、地域の行事、学校行事等に生徒が積極的に参加し活躍できるように工業4学科で連携して協力しあう。 担当が特定の工業科の負担にならないようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 比較的スムーズに共有することができた。前任者からの引継から研究発表の把握が遅れたことが課題である。 一部の学科へ負担は解消できた。 	B
	② 中学生及び地域への積極的なアピール	<ul style="list-style-type: none"> HPを充実させる。地域でのものづくり講座、地域のフェスティバルなどに積極的に参加をする。愛西市役所などとも協力し中学校に向けて出前授業などアピールをしていく。また中学生対象のものづくり教室を学校で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> HP、説明会、出前授業、地域の行事などを利用して生徒の活躍した情報を発信していく。地域の行事など参加するものについて過度の負担とならないようにしながら参加していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 在校生の母校（中学校）訪問は生徒からの評判も良かった。オープンキャンパスからWeb申込に変更した。 	A
	③ 資格の合格率向上	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得意識の向上に向けて、生徒の意識を高める。また夏休みなど、長期休業中を使った資格取得を奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学科、学年と協力して資格の合格率を向上させる。また、資格についても生徒が受験するにふさわしいかどうか精査する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中の講習会は、熱中症防止のため冬季休業中へ実施時期を変更した。 	B
ロボット工学科	① 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣が出来るように指導する。また、欠席・遅刻・早退の数を減少させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会人の育成を目標とし、基本的な生活習慣の確立を高校生から行い、社会人としての心構えを育成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 概ね規則正しい生活が送れている。やむを得ない欠席は、連絡があるが継続指導が必要である。 	A
	② ロボット教育の確立	<ul style="list-style-type: none"> 本校に配備されたロボットを使用し、授業展開を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> COBOTTAを使用し、アプリ上の取り扱いだけでなく、プログラミングについても学習し、SIerとしての育成を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 一部の生徒はロボット工学に興味をもち取り組みことができています。次年度以降のロボット工学科希望生徒の増加につなげたい。 	B
	③ 各種競技会に適応できる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 各種技能士や検定試験、競技会などの指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習の内容を発展的にし、様々な課題に取り組める人材の育成を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 競技会参加まで十分な練習を行っているが、結果に繋げることが課題である。全員受験の検定試験の合格率は減少傾向にあり、意識づけ及び指導の見直しが必要である。 	B

令和5年度愛知県立愛西工科高等学校 学校評価

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できたC:継続的な取り組みが必要であるD:取り組むことができなかった

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	評価		
				具体的方策の評価	結果と課題	重点目標評価
本年度の重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。					
機械科	① 基本的な生活習慣の確立	・ 基本的な挨拶・生活習慣ができるように指導する。また、遅刻・欠席・早退数が減少させる。	・ 新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、健全な社会人を育成するために、基本的な生活を過ごせるように注意する。	B	・ 入学時より実習開始5分前整列点呼は余裕を持って行動でき、安全に実習準備ができた。また、学校生活における遅刻、欠席、早退数の減少にむけ声かけをおこなった。	B
	② デジタル産業機器の導入	・ 本校に配備されたデジタル産業機器を使用し、授業展開を行う。	・ NCフライス、レーザー加工機、材料試験機を使用し、現在の企業に対応できるデジタル人材の育成を行う。	A	・ 課題研究等でデジタル産業機器を積極的に利用した。そのことが板金作業でのレーザー加工技術を習得する生徒の増加となった。	A
	③ スペシャリストの育成	・ 各種技能士や検定試験などの受験指導を行う。	・ 実習や工業術基礎の内容に対して、発展的な課題に取り組めるように指導を行う。	B	・ 各種技能検定及び資格検定指導により合格生徒が数多くいる。さらに各種検定試験合格者が増加を目標にレベルアップが必要である。	B
電子工学科	① 産業界で求められる人材の育成	・ 規則正しい生活習慣を日常的に指導する。	・ 遅刻・欠席が社会にでたら許されないということを意識付ける。	A	・ 年度末に向けて、意識づけの指導を強化し規則正しい生活を送る生徒が昨年度より増加した。	B
		・ 身だしなみや対応力を日常的に指導する。	・ 頭髪や服装はもちろん、様々な場面での対応力を日々の教育活動の中で意識させる。	B	・ 身だしなみや挨拶に対する意識が向上している。	
	② 資格取得の推進	・ 資格取得の意識高揚と取得数が向上するように指導する。	・ 学科全体で資格取得に向けた環境作りに努め、日頃から意識高揚を図る。	B	・ 2年生全員受験の第二種電気工事士は、受験者28名中筆記合格者19名(合格率68%)であった。また、第一種電気工事士(2名合格)など上位資格にも挑戦する生徒がいた。	B
③ 電子工学科の魅力の発信	・ 地域との交流や学科のPRに努める。	・ ホームページ内容の充実や地域におけるものづくり教室など各種講座を開催する。	B	・ ホームページの内容の更新を行った。中学生へのPR不足もあるため、継続して実習風景の撮影等充実を図る。	B	

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できたC:継続的な取り組みが必要であるD:取組むことができなかった

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	評価		
				具体的方策の評価	結果と課題	重点目標評価
建築 デザイン科	① 社会で役立つ人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 社会のルールに基づいた生活指導を実践し、人間的な成長を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会のルールに基づいた礼節、期日遵守、ケジメのある学校生活を日頃から意識するように指導する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が左記を意識し学校生活を送ることができた。 	A
	② 学科の特色を活かした取り組みの充実 (魅力ある授業づくり、資格指導、各種競技会への参加、進路指導など)	<ul style="list-style-type: none"> 魅力ある授業や実習を計画し実施する。 資格取得に向けた指導を充実させる。 各種競技会への参加する。 適切な進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心を引き出す授業、実習を模索し実施する。ICTの活用し、生徒が主体的に学ぶ授業展開を模索する。 実技講習会、現場見学会など企業と連携した取組を実施し、職業教育に役立てる。 技能検定(建築大工、鉄筋組立)、2級建築施工管理技術検定、CAD検定、製図技能検定等の資格を取得させ、自信をもたせる。 ものづくり競技会、建築設計競技に意欲的に取り組み、建築に対して意欲・関心を高める。 関係分掌、担任、保護者と連携し、計画的に適切な進路指導を行う。 インターンシップ、企業見学などを通して望ましい職業観の育成を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用や実例を示しながら指導を行い生徒の興味関心を引き出す授業を模索し実施した。 職業教育の一環として、企業と連携し下記事業を実施した。 建設現場見学(6月,10月,3月) インターンシップ(7月 1,2年生) クラフトマンⅢ(7月 2年生) 実技講習会 左官(10月 2年生) 建設業ガイダンス(12月 2年生) 実技講習会 型枠(3月),測量(2月) 建設業セミナー(1月 2年生) 出前授業(1月 1年生) 	A
				A	<ul style="list-style-type: none"> 建築製図技能検定 18名/22名合格 技能検定3級建築大工3級 2名合格 技能検定3級建築大工3級 3名受検(1月) 技能検定3級鉄筋組立3級 8名受検 建築CAD検定 3級 3名合格 4級 17名合格 計算技術検定 3級 14/17名(1年生) 計算技術検定 3級 全員取得(2年生) 	
				B	<ul style="list-style-type: none"> 第29回総合競技大会 木材加工競技の部 佳作 東日本建築教育研究会 製図コンクール3名応募 	
				A	<ul style="list-style-type: none"> 関係分掌、学級担任、保護者と連携し計画的に進路指導を行うことができた。 地域ものづくりスキルアップ講座「クラフトマンⅢ」に3名(2年生)が参加、インターンシップに20名(1・2年生)が参加した。これらの活動から望ましい職業観の育成に繋げる事ができた。 	
	③ 建築デザイン科の魅力・特色の発信	<ul style="list-style-type: none"> 地域と交流、連携した取り組みを行い、学科のPRに努める。 ホームページの更新を適宜行い、学科の特色、魅力を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験入学、ものづくり教室、地域との連携講座、出前授業などを通して学科の特色・魅力を発信する。 ホームページの更新を適宜行い、学科の特色、魅力を発信したか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 中学生体験入学、ものづくり教室(6回)、地域連携講座(12月)などで学科の魅力発信に取り組んだ。 	A
				B	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを新しいシステムに移行した。また、実習風景の動画を掲載するなど内容の充実を図る事が出来た。 	

令和5年度愛知県立愛西工科高等学校 学校評価

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できたC:継続的な取り組みが必要であるD:取り組むことができなかった

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	評価		
				具体的方策の評価	結果と課題	重点目標評価
本年度の重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。					
1学年	① 基本的な生活習慣を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> 有意な学校生活を送るために規則正しい生活を確立し、欠席・遅刻・早退をなくすためにきめ細かな指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連絡を密にし、生徒に対して早めの対応を心掛け、学科・教科と連携し指導を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 担任が朝のST開始前に教室に行き落ち着いて朝のSTを実施し生徒の様子が把握できた。 	A
	② 時間・約束・ルールを守る規範意識を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみを整えることや提出物の期限を順守するなどルールを順守する意識を求め、規範意識を高める指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の授業・学習態度に気を配り、教科担任や学科との連絡を密にし、連携した指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が規範意識をもって学校生活を送ることができた。ただし、一部の生徒には継続指導が必要である。 	B
2学年	① 規律ある生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 時間厳守 挨拶、返事の励行 学習習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活を送るよう努めさせる。 学校生活において5分前行動を徹底する。 ST、HR、学年集会等を通して元気に挨拶ができるように指導する。 毎日の授業に集中させ、学習習慣を確立させる。また、提出物の期限を守らせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に体調管理意識が高まり、欠席・遅刻が若干減少した。改善が必要な生徒へ粘り強く指導する。 	B
				A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が必要な場面で挨拶ができていると感じる。進路実現に向け相手に対する姿勢や態度も指導していきたい。 	
				B	<ul style="list-style-type: none"> 一部の生徒は継続指導が必要であるが、概ね授業態度や課題等の提出状況は良好である。学習、資格取得、検定合格に取り組む時間を生活習慣とする指導をしていきたい。 	
	② 修学旅行の成功	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行を想定し、学校行事へ取り組むことができるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行を想定して学校行事に取り組ませる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭、文化祭で各クラスで協力し競技参加や企画展示することができた。 	A
	③ 進路実現に向けての意識づけ	<ul style="list-style-type: none"> 納得できる進路実現のための基礎学力の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 就職問題集を用い、早い時期からの就職試験対策を行い、その過程で基礎学力を充実させる。また、進路指導課と連携し、進路選択に向けた行事を充実させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年生による進路講話から進路実現への具体的目標の設定ができるようになった。 	B

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できたC:継続的な取り組みが必要であるD:取組むことができなかった

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	評価						
				具体的方策の評価	結果と課題	重点目標評価				
本年度の重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。									
3学年	① 基礎的人間力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 時間を守る大切さの意識付けを行い、実践できるようにする。 率先して挨拶をする大切さ教え、実践できるようにする。 身だしなみが相手に与える印象を教え、普段から意識できるようにする。 学習に真面目に取り組む姿勢を大切にす。 社会で必要となるルール・マナー・モラルの大切さを教える。 話す力の充実 クラスメイトを大切にする意識を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席・早退等がないように指導し、5分前行動を意識させる。指導するだけでなく、教員自身の率先垂範で見本を見せられるようにする。 自ら進んで挨拶ができるように指導する。指導するだけでなく、教員自身の率先垂範で見本を見せられるようにする。 外部講師から身だしなみについての印象を学ぶ機会を作る。担任だけで指導するのではなく、教科担任や学科との連絡を密にし、連携した指導を行う。 授業に対する姿勢の向上および提出物の期限厳守を図る。 LT等で、具体例を挙げながら、社会でのルール、マナーを守ることの大切さを教える。 人に見られる場面で、題目に沿い自分自身の考えを話すことに慣れる機会をつくる。 普段の学校生活を通じて、また高校生活最後となる行事を通じて仲間とともに高め合う姿勢を身につけられるよう促す。 	B	多くの生徒は、意識の向上ができた。	B				
				A	生徒からの挨拶する機会が多くなった。					
				A	多くの生徒は就職試験後も意識を維持した。一部の生徒の意識低下が今後の課題といえる。					
				B	多くの生徒は期限の意識づけができた。一部の生徒は、対応が必要である。					
				B	多くの生徒はルールを守ることができた。一部の生徒への対応が課題である。					
				B	夏季休業期間中の面接指導により早くから面接に対する意識づけができた。					
				B	行事ではクラスのために前向きに取り組む生徒が多かった。特に文化祭は、最高学年としての姿を見せることができた。					
				② 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 個々の進路希望に沿った的確な情報の提供 就職試験および入学試験 		<ul style="list-style-type: none"> 進路指導課、学科と連携して生徒自身が適切な進路選択ができるように指導する。 生徒及び保護者と密に連携を図る。 進路指導課を中心として、学科、教科、担任で連携して全職員の協力により、指導を行う。 	A	進路選択は保護者の協力もあり、ほとんどの生徒が自分の意志で決定することができた。	A
								A	事後アンケート結果から、多くの生徒が肯定的に取り組むことができた。生徒によりテキストの難易の感じ方が違うことが課題である。	
				③ 社会で必要とされる人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 将来の社会人としての在り方と生き方の指導 話す力、書く力の充実 		<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を通して、社会でのルール、マナーを確認しながら、適切なコミュニケーションの取り方を指導しながら、社会的自立を促す。 授業等でのスピーチ・作文を指導をする。 	A	社会人マナー講座を実施した結果、社会人としての意識向上につながった。	B
C	スピーチ及び作文を指導する機会の設定が課題である。									

令和5年度愛知県立愛西工科高等学校 学校評価

評価 A:十分達成できた B:おおむね達成できたC:継続的な取り組みが必要であるD:取り組むことができなかった

本年度の 重点目標	すべての教育活動において、教職員と生徒がその目標と内容や計画を共有し見通しを立てて取り組む。					
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	評価		
				具体的 方策の 評価	結果と課題	重点目 標評価
安全衛生 委員会	① 定時退校の推進	・ 今までの定時退校日に加え、本校独自に定時退校日を設定することなどを提案していく。	・ 繁忙期に当たらないよう、留意して設定する。	B	・ 定時退校日を月一回設定し、職員への周知を積極的に行った。	B
	② 職場環境の改善	・ 美化活動の実施と必要に応じて職場環境の改善を行う。	・ 定期的に巡視を行う。	B	・ 長期休業中に休養室及び普通科職員室の美化活動を実施した。また、棚の固定や設置場所の検討など安全対策を進めた。	B